

下松市合流式下水道緊急改善事業事後評価アドバイザー会議 議事録

1 開催日時 平成 29 年 2 月 2 日 (木) 10:00~11:20

2 開催場所 下松市上下水道局 3 階 会議室

3 出席者

委員 3 名 (豊福会長、中山副会長、林委員)

事務局 5 名 (白木局長、今谷課長、児玉補佐、藤井係長、古木)

オブザーバー 2 名 (オリジナル設計 今川、埜渡)

4 議事次第

- ・ 委嘱状交付
- ・ 説明
 - ・ 下水道の役割
 - ・ 下松市の下水道計画
 - ・ 合流式下水道緊急改善事業計画
 - ・ 事後評価

・ 質疑応答

豊福委員 評価手法の内容で H27 のモニタリング調査時期が分かりにくい。
総事業費 3 億円との説明だったが、安すぎるのではないか。

事務局 平成 27 年度中にモニタリング調査を実施しています。

中山委員 事業終了時期と、高速ろ過システムの稼働開始時期はいつだった
のか。高速ろ過システムの位置も確認したい。

事務局 事業終了は平成 25 年度末で、稼働開始は平成 26 年度からです。
位置は、既設最初沈殿池の 2 池を改造して設置しています。

中山委員 ろ材はどのようなものか。砂ろ過なのか。

事務局 ろ材は十字の形状をしており、大きさは 1 個 1 円玉くらいで、大
量に収納されています。砂等ではありません。

中山委員 高速ろ過装置の処理能力は？

事務局 25,200m³/日です。

中山委員 BOD の基準は、分流の場合でどの程度か。

事務局 BOD 排出基準は、晴天日で 25mg/l、日間平均 20 mg/l 以下です。

中山委員 下松市で、オイルボールが発生したという実績はあったか。

事務局 下松市でオイルボールが発生した事例はありません。

中山委員 高速ろ過装置は、雨天時には自動で運転するのか。また、手動だ
った場合には、自動化を行うことは検討しているのか。

事務局 運転開始・終了は手動で行い、一度運転を開始すれば自動で継続
して処理を行います。自動化については、雨の降り方等を総合的
に判断して運転するため、現状では考えていません。

林委員 管内貯留することにより、上流域の滞留等の問題はないのか。
事務局 貯留計画高までであれば余裕があるので問題ありません。また、排水ポンプの能力も貯留量に追いつくので、問題ありません。

林委員 どの程度の降雨量で、未処理放流が発生するのか。
事務局 降雨継続時間によるが、おおよそ 10 mm 以上です。

林委員 放流回数目標は、なぜ半減だったのか。
事務局 大雨に対応可能な貯留施設を作る等の場合は費用が膨大になる。早期の対策効果を発現させるために、半減とされた。

豊福委員 将来的には放流回数 0 回を目指すのか。また、ゲリラ豪雨にはどのように対応するのか。
事務局 放流回数 0 回を目指すとなると、合流区域内の分流化や、55 mm 以上の降雨に対応できる計画への変更が必要となるが、現時点では無理です。

林委員 雨水ポンプは自動運転にできるのか。
事務局 可能だが、今のところは人間の判断により手動で行っている。一度停止すると再起動するまでに時間がかかるということもあり、ポンプの起動、停止のタイミングは雨の降り方を見ながら人間が判断している。

林委員 今回で緊急改善事業としての目標はクリアしたが、下松市は今後はさらなる分流化を進めていくのか、このままなのか。
事務局 当面は、事業目標を達成していることから、さらなる改善は予定していません。

中山委員 高速ろ過と高級処理で、BOD はどの程度違うのか。
事務局 高速ろ過による BOD 除去率は、約 70 % 程度であり、高級処理による BOD 除去率は、現在は約 95 % 程度です。

中山委員 高級処理と同程度とはいかないということか。
事務局 微生物処理と同程度には出来ません。

豊福委員 想定未処理放流回数について、季節的にいつが多いのか。やはり梅雨時期が多いのだろうか。
事務局 梅雨時期の降雨は雨量が多く、水質的に BOD 15 未満となることが多いので一概に梅雨時期が多いということではありません。

中山委員 事業費 3 億でこの結果は上出来だ。
これまでも、下水道整備が進むことによって、河川が綺麗になってきた。

・ 意見取りまとめ

豊福会長の取りまとめにより、下水道緊急改善事業事後評価としては承認することとし、各委員賛同。

・ 閉会